

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

交配期までに根をしっかり張らせる

根を充実させることが、安定した雌花の着生、果実肥大、つるもちにつながります。品質のよいスイカを収穫するためにも、収穫前の水切り(糖度上昇)に耐える根群を交配期までに作る事が重要です。

スイカは、粘土質で水はけの悪い場所は好みません。有機質が多い土壌で日当たりのよい場所を選び、高畝(20cmほど)にします。

定植後は多めの水管理と暖かめの管理(トンネルやホットキャップ使用)で活着を促しますが、活着後は交配期に向かって徐々に灌水量を減らします。水分とチッソの肥効を控えて地上部の生育を抑え気味に管理し、採光を促進して深い根群の形成を促します。

適切な着果節位を守り、果形を安定

一般に交配期の草勢・水分・温度不足は、幼果の果形が乱れる(肩流れ、尻太果)要因となります。

果実を養うには十分な葉枚数が必要で、着果節位は18節前後の3番花以降が適切です。低節位(14節以下)の着果は、変形果の発生が懸念されます。

「紅まくら」は果形が枕形なので、肩が流れると丸玉のスイカよりもいびつに見えやすくなります。温度と水分環境のよい状態で、着果節位を守って果実を着けてください。

交配期の草姿の見方

交配期の理想の草姿は、雌花の開花位置がつる先から30~50cm、つる先の高さが10cm以下、雌花からつる先までの展開葉3~4枚が目安です。

草勢が強く、つるボケで3番花の着果が不安定になりそうであれば、15節前後の2番花に着果させ、

草勢を安定させます。逆に生育が弱ければ(低地力、少肥、過乾燥)、灌水や追肥で草勢を回復させ、4番花(24節前後)以降の着果で商品価値を上げます。

収穫前の水分管理で高糖度に

果実の糖度を高めて酸味を抑えるため、着果(開花)から1カ月ほど経過したところより徐々に灌水量を減らし、果実の水分量を下げて糖度の上昇を図ります。

トンネルやハウス栽培なら、降雨による糖度への影響や裂果の危険も緩和し、栽培がより安定します。

収穫前の試し切りで、適熟果を収穫

品質に当たり外れが出ないように適熟果の収穫を心掛け、若どりや過熟にならないよう十分に注意します。完熟の目安は、果実の打音(高音は未熟)、着果節の巻きひげの枯れ込み(先端から黄化→茶褐色に枯れ上がり)などですが、判別には熟練を要するため、試し切りで熟度を確かめてから収穫します。

試し切りの目安は、平均気温の積算温度です。早生の「瑞祥」は900℃、中生の「紅まくら」は1,000~1,100℃が目標です。収穫日の予想を立て、着果標識(開花=交配日を記したラベルを果実につけるなど)をもとに試し切りを行い、果肉色、肉質、糖度を確かめてから本収穫に入ります。

4月下旬定植→6月上旬交配→7月上中旬収穫であれば、「瑞祥」は約40日、「紅まくら」は約45日で登熟を迎えます。

■直売所出荷向け スイカ標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ハウス	●	●	●	●	●	■	■	■	■
トンネル		●	●	●	●	●	■	■	■
露地			●	●	●	●	●	■	■

● 播種期 — 生育期 ■ 収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

スイカ



より品質にこだわって“シャリ感&おいしさ”をアピール！

スイカ



スイカ担当
東海林 靖



瑞祥：適度なやわらかさとシャリ感がある果肉で食味がよい。収穫期の判断をよりの確にすることがおいしさのポイント。

紅まくら：シャリ感・甘みがあり、食味が特に優れる大玉スイカ。見た目のおもしろさとともにアピールできる。

降雨の影響を受けず、栽培がより安定するトンネル栽培などで、糖度の高いスイカを収穫したい。

直売所出荷向きの品種選定

スイカは日本の夏の風物詩です。冷やしたスイカのみずみずしい果肉を“シャキッ”と頬張る爽快感が、夏の食卓を豊かに彩ります。

スイカは“紅色の淡雪を食らふがごとし”と古くから詠われたように、その独特の“シャリ感”や“やわらかな口どけ”が日本人に親しまれてきました。しかし昨今は、長距離輸送の流通体系の中、果肉がかたくて店もちのよい品種が台頭し、スイカ本来のおいしさは失われつつあります。

地産地消の“新鮮さ”が魅力の直売所には、今こそ昔懐かしいシャリ感を添えて、旬のおいしさを満喫できるスイカを出荷しませんか？ より品質にこだわった品種をおすすめしたいと思います。

おすすめしたいこの品種！

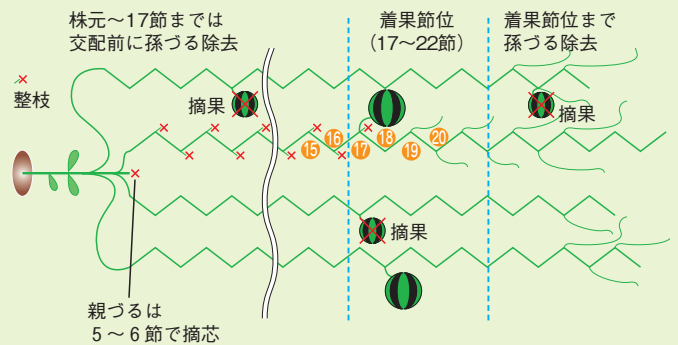
最もおすすめしたい品種は「**紅まくら**」です。その際立つ甘みは、酸味の少なさによります。糖度計の値よりも豊かに感じられる甘みと、歯触りのよいシャリ感、独特の芳醇な風味が相まって、スイカの醍醐味を十分に満喫できます。

果重7～8kgの大玉種で着果が安定し、空洞果や裂果も少なく、栽培しやすい品種です。果形はやや長めのまくら形で、品質のよさに加え、独特の果形が特長です。

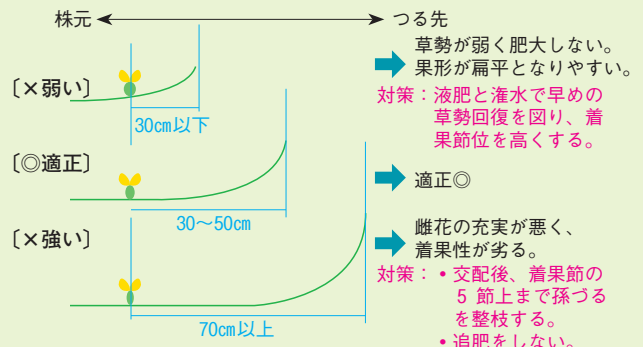
「**瑞祥**」は、大玉種の中では5～6kgとやや小さめですが、果肉はやわらかくてシャリ感があり、風味豊かで口どけのよい品種です。

早生種なので、交配から収穫までにかかる日数が「紅まくら」より5日ほど早くなります。食味の優れた品種ですが、柔肉種は概して過熟になりやすいので、収穫期の判断が重要なポイントになります。

子づる4本整枝2果どり栽培の模式図



交配期の草勢管理



ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

※積算温度…例えば、ある日の最高気温が30℃、最低気温が16℃の場合、その日の平均気温は23℃になる。交配日からその温度を積算していき、「瑞祥」であれば900℃、「紅まくら」であれば1,000～1,100℃になる日が収穫適期の目安になる。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

播種して3カ月足らずで収穫を迎える生育の早い作物ですが、おいしいスイートコーンを収穫するためには、各生育ステージでのポイントを押さえ、的確に対応することが大切です。以下の栽培ポイントを、ぜひ実行してみてください。

土づくりは保水性と排水性のバランスをとる

根張りがよいと丈夫な株ができ、大きな穂をつけやすくなります。深耕し堆肥などを多用し、保水性と排水性のバランスのとれた土づくりを行います。排水性の悪い圃場では高畝にしましょう。

元肥は、チッソ、リン酸、カリの成分量で10㎡当たりそれぞれ200～250gを施します。

14℃以上の地温で播種

発芽が揃うと栽培管理がしやすいうえに、収穫期のばらつきが減り、適期のものを収穫しやすくなります。糖度が高いスイートコーンほど発芽が不安定になる傾向があります。発芽を揃えるためには、地温を14℃以上確保して播種することが重要です。14℃を下回る場合は、マルチやトンネルを張り地温確保に努めます。

栽植密度は、畝幅150～160cmの2条まきで株間30～33cmくらいが適当です。

追肥の時期

ボリュームのある大穂を収穫するには、出穂期までに生育旺盛な株を作ることが重要で、そのため本葉6～8枚ごろと雄穂出穂期の2回、それぞれチッソ成分量で10㎡当たり50gを速効性肥料で施します。

水分不足にさせない灌水

開花期から収穫期までに水分が不足すると、糖度

不足、先端不稔、穂の肥大不足につながります。特に1回目の追肥時期以降は急速に生育が進むので、灌水量を多くし乾燥させないよう適湿に保ちます。

適期に収穫、すぐ出荷！

収穫が適期よりも早いと十分に糖度がのらず、逆に遅れると品質が急激に低下するので、適期収穫が非常に重要になります。収穫適期は絹糸抽出日から21～25日ごろです。絹糸抽出日を記録し、収穫期がきたら試しむきをして、先端の子実が肥大し黄変していることを確認しましょう。またスイートコーンは、早朝の品質が最も高くなります。早朝収穫し、収穫後すぐに出荷することも重要です。

栽培 Q&A

Q. 焼きとうもろこしに向く品種は？

A. 今回ご紹介した品種は皮がやわらかすぎるため、焼きとうもろこしには適しません。ゆでて極上の食味を堪能してください。焼きとうもろこしには、焼いても皮が破れにくい「キャンベラ」シリーズをおすすめします。

Q. 分けつと2番目の穂は取り除いた方がよいのですか？

A. 分けつを残すことで葉面積や根量が増えて増収が期待できるうえ、倒伏防止にも役立つので、取り除く必要はありません。また、2番目以降の穂の処理については取り除いても増収効果はあまり期待できないので、取り除く必要はありません。しかし、穂の肥大前に収穫するとヤングコーンとして利用できます。

■直売所出荷向け スイートコーン 標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培型	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
トンネル直播	●	●	—	—	—	—	—	—
マルチ露地		●	●	—	—	—	—	—
マルチ抑制			(90日タイプを使用) ●	●	—	—	—	—

● 播種期 ≡ トンネル — 生育期 ■ 収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

極良質強甘味種

タキイのタキイ

黄色と白のあま〜いハーモニー

“カクテル84EX”

直売所出荷だからできる、とれたてのおいしさをアピール！

スイートコーン



スイートコーン担当
池末 龍児
いけすえ りゅうじ



おひさまコーン7：主茎が太く、草丈170cm程度で、草姿はコンパクトな極良質強甘味種。穂先までよく着粒して先端不稔は少ない。



ルーシー90：甘みが強くやわらかで優れた食味。直売所ならではの商品としても新鮮さがある。



キャンベラ90：甘みが強く、焼きとうもろこしで皮が破れにくい。穂長約32cmの大穂になり、穂の先づまりが特によい。

直売所出荷向きの品種選定

現在のスイートコーンの市場は、糖度が高く粒皮のやわらかい極良質系品種が多く流通しています。しかし、スイートコーンは収穫してからの糖度、風味の低下が早い作物です。さらに最近の品種は粒皮がやわらかい分しわが入りやすく、日もちが悪い傾向にあります。そこで朝に収穫し、その日のうちに販売できる直売所は、おいしいスイートコーンを提供できる絶好の場になります。

おいしいスイートコーンを収穫するために、おすすめ品種と栽培ポイントを参考にしていただき、感動するほどおいしいスイートコーン作りにチャレンジしてみてください。

今回は、黄色・バイカラー・白色の3種それぞれで、食味からセレクトしたおすすめ品種をご紹介します。

おすすめ黄色種

「おひさまコーン^{セブン}7」は糖度が高く、粒皮が特にやわらかい最高級の食味を持つ極良質の黄色種です。直売所ではこの極上の食味をアピールして、購買意欲を高めましょう。

中間地のマルチ栽培では播種後86日程度で収穫可能な中早生種で、400g以上(苞葉付き)の大穂が収穫できます。また、外皮色は濃緑色でバランスのよい旗葉が大きく、外観的にも優れています。

おすすめ白色種

「ルーシー90」は量販店ではほとんど見られない、粒色が白一色の品種です。粒皮が白で美しく珍しいので、差別化しやすい品種です。

適期では播種後90日程度で収穫可能な中生種で、390g以上(苞葉付き)の穂が収穫できます。ただし、黄色種、バイカラー種の花粉で受粉すると黄色の粒が混じることがあるので、隔離栽培するか、開花期が重ならないように注意してください。

新世代のバイカラー種

今年の目玉はこの品種！

「カクテル84EX」^{イーエックス}



黄色い粒と白い粒が混じるバイカラー種で極良質種は、あまりなじみがないかもしれませんが、本品種は粒皮がやわらかく、甘みが強いのが最大の特長です。播種後84日程度で収穫可能な中早生種で、400g以上(苞葉付き)の大穂が収穫できます。先端不稔が極めて少なく、穂の揃いが抜群です。黄色粒の色が濃いいため白粒とのコントラストが美しく、粒列がよく揃います。また、苞葉の色が濃く、新鮮感が持続します。

カクテル84EX：従来のバイカラーとは一線を画した、糖度が高くやわらかな極良質強甘味種。穂の揃いがよく秀品率が高い。

ミニポップの
使用例、募集！

宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

オクラ

良品出荷のための圃場選定と施肥

連作によるネコブ線虫や立枯病の被害を回避するため、オクラを含めた果菜類の後作地を避け、ほかの作物との連作体系をとります。できれば葉・根菜類、イネ科の後作がより効果的です。また冬季に有機物を投入し、保水性と排水性のよい耕土を準備することも大切です。

オクラは吸肥力の強い作物のため、栄養生長に偏らないよう追肥重点で肥料を施します。施肥量は10㎡当たりの成分量で、チッソ150g、リン酸120g、カリ120gを目安とします。追肥は、1～2莢収穫後から月に2回の割合で、10㎡当たりチッソ成分で30gずつ施します。液肥で施す場合は肥効が早いので、1回の量を少なくして回数を増やすとよいでしょう（例：10㎡当たりチッソ成分で10gを月に6回施肥）。

播種のポイント

オクラは種皮がかたく、そのままでは発芽しにくいので、一晩水に浸してから播種すると発芽が揃います。無理な早まきは発芽と初期生育を悪くし、立枯病の発生につながるのを禁物です。地温を確保して発芽と初期生育を順調に進めるために、マルチ栽培とします。露地栽培では5月に入って遅霜の心配がなくなり、地温が上昇したころ、トンネル栽培ではその1カ月前に1穴3～5粒播種します。

秀品率維持のための草勢管理

秀品率を低下させる代表的な生理障害に、イボ果や曲がり果の発生があります。イボ果や曲がり果の発生は品種間差があるものの、肥培管理や気象条件などの影響が考えられます。草勢が強すぎたり、逆に疲れにより草勢が低下した時に発生が多くな

ります。また、日照不足、乾燥、過湿などのストレス条件でも発生します。灌水、追肥、摘葉、適期収穫に注意し、栄養生長と生殖生長のバランスをとって栽培することで発生を抑えます。

ココが重要！ 鮮度・品質維持のためのポイント

収穫は莢のやわらかい8cm前後の大きさを目安とし、果梗部を少しつけて切り取ります。収穫時期が遅れると莢が硬化して品質を落とすので、適期収穫を心掛けましょう。また気温の低い早朝に収穫し、日陰で選別や荷づくりを行うことで鮮度を保持します。収穫後は、収穫節から下1～2葉を残して、それより下の葉を取り除きます。草勢に合わせて取り除く葉を1～2枚増減させても構いません。摘葉で通気性がよくなり、病害虫の発生も抑えられ、品質の向上が見込めます。

栽培 Q&A

Q. 生育中の草勢判断の方法は？

草勢を見る目安 〔葉の形で見る場合〕

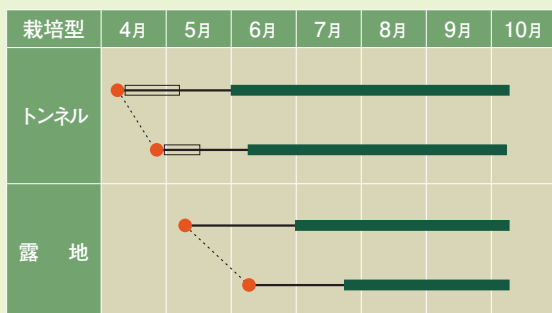


〔開花節で見る場合〕

開花節位	草勢
上から3節以内	弱い
上から3～4節	正常
上から5節以上	強すぎ

A. 草勢判断は主に葉、茎で判断します。草勢が強くなると、葉の切れ込みが浅くなり、丸みを帯びて葉柄が長くなります。また、茎は太く過繁茂になりやすく、生長点から開花節までの長さは長くなります。逆に草勢が弱い場合は、葉が小さく、切れ込みが深くなり、色あせてきます。開花節は生長点に近くなり、激しい時は芯止まりになることもあるので注意が必要です。

■直売所出荷向け オクラ標準栽培 適期表
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）



●播種 — 生育期 ≡ トンネル ■ 収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)



鮮度保持してフレッシュオクラをアピールしよう！

オクラ



オクラ担当
なかやま けんじ
中山 健治



グリーンソード：極濃緑で色ツヤ・食味がよいこの品種で鮮度をアピールしてみたいは？



エメラルド：丸莢は一般流通が少ないので、直売所にはうってつけの品種。やわらかくて食味も優れる。



ベニー：売り場で赤紫色が際立つ珍しいオクラ。草丈は高く強勢、分枝数が多く豊産で栽培しやすい。

直売所出荷向きの品種選定

生産者の顔が見える直売所は、地産地消による安心感といった点で特に注目されています。このような傾向を受け、「安心＝鮮度」という観点からおすすめ品種と栽培のポイントを紹介したいと思います。

5角莢品種

鮮度や見た目がポイントになる、直売所出荷に向く品種として「グリーンソード」が挙げられます。極濃緑で、莢は稜角がはっきりして目を引きまします。また、色ツヤがよく、肉質もやわらかくて食味がよいことも特長です。耐暑性に優れ秀品率も高く、作りやすいことからオススメです。

早出し出荷をねらう産地では、濃緑莢の「アーリーファイブ」が使われています。

丸莢品種

特に品質を重視した直売所出荷では、「エメラルド」はいかがでしょう？ 特長は、とにかくやわらかく食味がよい点です。5角莢種ではかたくなってしまう15cm程度の大莢でも、やわらかい状態です。スーパーや量販店で販売されていることは少ないので、消費者の目を引きやすい品種です。

赤莢・多角莢品種

量販店で販売されていない珍しいオクラとしては、赤莢種の「ベニー」や多角莢種の「クリムソン・スパインレス」があります。

「ベニー」はオクラでは珍しい赤紫色で、濃緑色の5角莢種と抱き合わせで出荷してはいかがでしょうか？ ただし、莢色の赤紫色は加熱すると深緑色に変化します。

「クリムソン・スパインレス」は平均8角の鮮緑色の太莢で、輪切りにして5角莢種と混ぜて使うと「おや？」という感じでおもしろいでしょう。

オクラ豆知識

産地の主流！オクラの密植栽培について

オクラは葉が大きいので、株間を広くとりがちですが、密植栽培の方が収量を上げることができます。具体的には、株間20cm程度で5粒まきとします。密植により側枝の発生が抑えられ、主枝を中心に収穫できるため、株間を広くとって側枝の多い状態で収穫するより収量が上がります。



株間20cm程度の密植栽培にすると多収が見込める。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。
当コーナーに掲載されているミニポップ(2008年冬春号以降)を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください(直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイ種苗」ストラップを差し上げます(2009年4月末日締切。当選発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。)

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

高秀品率を維持するためのポイントを解説します。

初期から強勢に作る

収穫最盛期以降に草勢の低下を引き起こさないためにも、初期から強勢に作ることが大切です。

着果節位を上げる 若苗定植でスムーズな活着に努め、7節目までの雌花と側枝を除去（特に雌花は確実に除去）し、8節目以降の雌花を収穫対象にします。天候不順などで初期生育が順調にいかなかった場合は着果節位を2～3節上げ、草勢の回復に努めます。

主枝の摘芯は早めに 主枝は手が届く高さ（本葉25枚ほど）で摘芯します。摘芯を早めに行うことで、草勢を強く保つことができます。

草姿の維持を図る

十分に通風と採光が図れる草姿を維持することで力強い新芽の発生を促し、充実した雌花を開花させ、秀品性を持続します。

広めの株間で栽培を 1本仕立ての場合、60～70cmの株間が目安です。しかし、収穫最盛期に管理が遅れるようなら、少し広め（90cmまで）で栽培してください。

積極的な摘葉を 収穫開始から約1カ月後には、主枝の葉をすべて摘葉できているのが理想です。収穫開始直前に下葉2枚程度を摘葉し、以降2～3回は週に1回、下から順に2～3枚ずつ除去します。葉が込みあってくれば摘葉数を3～4枚に増やします。

摘葉作業が遅れた場合、側枝上段の果実収穫以降であれば一度に5～7枚ほど摘葉し、株全体をスッキリさせても構いません。ただし同時に枝整理は行わず、2～3日経ってから整枝を再開します（図）。

梅雨明け後の草勢維持が重要

収穫が始まれば、週に1回の間隔で定期的な追肥を行います（表）、梅雨明け以降は収穫量も増え、暑さも厳しくなるため、より積極的な草勢維持対策が必要です。

追肥について

	1回のチッソ成分施肥量 / 10㎡	施肥間隔
粒状(速効性)	30g	5～7日に1回
液肥	10～15g	2～4日に1回

不良果の摘果は早めに 曲がり果や尻太果は「株が養いきれない果実」と判断し、思い切って摘果します。不良果は雌花の小さい段階から決まっているため、摘果はできるだけ早い時期に行い、草勢の回復を図ります。

チューブでの積極的な灌水を 樹の状態にもよりますが、収穫対象の雌花（主枝の8節目以降）の開花時期からチューブでの灌水を開始します。それ以後は栽培期間を通じ定期的に灌水し、盛夏期には毎日でも灌水することが大切です。

地上上昇対策 梅雨明け直前に地温の上昇を抑えるため、マルチの上に厚めの敷きわらをします。これにより日中の萎れが軽減され、草勢維持に効果があります。

■直売所出荷向け キュウリ標準栽培 適期表
（※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください）

品種	栽培型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
Vアーチ 夏のめぐみ つや太郎 夏すずみ 夏ばやし シャキット	露	●	●	■	■	■	■		
	普通	●	●	■	■	■	■	■	
	抑制			●	●	■	■	■	■

● 播種期 — 生育期 ■ 収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/>（タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー）

おいしい+カンタン!!

キュウリで もう一品

もろキュウ サラダ 浅漬け ナムル ゴマあえ

タキイのタキイ

おいしいキュウリを鮮度感+安全性でアピールしよう！

キュウリ



新しん久ひさ紀のり
キュウリ担当



つや太郎：極濃緑で光沢がある果色。食味にも優れる。



夏のめぐみ：初期から安定して多収となる。極濃緑の果色で作りやすい。



通風と採光が図れる草姿を維持することで新芽の発生を促し、充実した雌花が開花する。「Vアーチ」なら草姿がすっきりしているので管理しやすい(写真左)。

直売所出荷向きの品種選定

近年、相次ぐ輸入食品の化学物質混入問題など、消費者にとって食の安全性は大きな関心事になっています。農業分野でも、国産というブランドだけで満足せず、農薬などの使用を極力抑えた「安心野菜の地産地消」を掲げていくことが大切なのではないでしょうか。

キュウリにおいても直売所出荷では、なおさら収穫されたその日に食卓に上る“新鮮さ”に加え、減農薬栽培による“安全性”をアピールしたいものです。減農薬栽培には、主要な病害に強い耐病性品種を栽培することが第一歩です。

キュウリ「Vアーチ」

最も複合耐病化が進んだ品種

うどんこ病、べと病、ウイルス病(主にZYMV)に強い「Vアーチ」は、「夏すずみ」や「Vロード」など従来の耐病性品種の特徴である高秀品率、つるもち性に加え、これまで以上の省力性を追求した品種です。側枝の節間が短く、小葉立性のスッキリした草姿となり、収穫や管理の場面で作業のしやすさを実感いただけます。また側枝が安定して発生し、連続雌花性が高いため、初期から多収となるのも大きな特徴です。



Vアーチ：高秀品率・つるもち性に加え、これまで以上の省力性を追求した耐病性品種。

今年の目玉はこの品種！

※栽培技術の詳細はタキイ最前線2009冬春号11～13頁を参照ください。

耐病性のおすすめ2品種

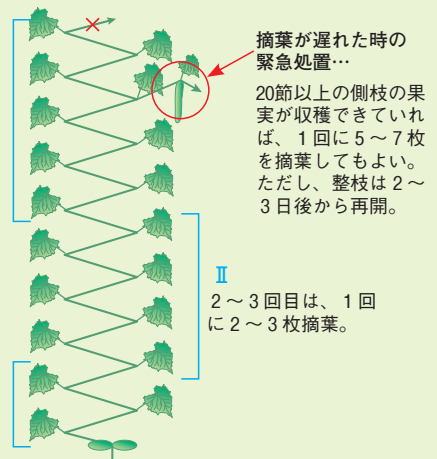
うどんこ病、べと病に耐病性のある「つや太郎」と「夏のめぐみ」は、特にテリがある濃緑の果実で、低温期でも果形が安定するため、露地の早い作型からお使いいただけます。

台木による耐病性の強化

台木用カボチャの「グリップ」は、キュウリの表面にブルームという白い粉が出るブルーム台木です。流通向きなブルームレス台木に接ぎ木した場合と比べて、うどんこ病などの主要病害に強くなるため、「Vアーチ」などとの組み合わせでさらなる減農薬栽培が可能になります。また、ブルームキュウリは肉質がしまり、果皮がやわらかくなるため、食味と食感が向上し、キュウリ本来の味が期待できます。

摘葉の進め方

- III
 - ・葉茎が込みあってくるので、3～4枚ずつ摘葉を継続。
 - ・収穫開始から約1カ月で主枝の摘葉終了。
- II
 - 2～3回目は、1回に2～3枚摘葉。
- I
 - 収穫開始前に2～3枚摘葉。



摘葉が遅れた時の緊急処置…
20節以上の側枝の果実が収穫できていれば、1回に5～7枚を摘葉してもよい。ただし、整枝は2～3日後から再開。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒6008086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

よい土壌で栽培する

インゲンは連作障害が出るため、2～3年間隔の輪作をすることが大切です。耐湿性も弱いので排水のよい土壌を好みますが、高畝栽培などをすれば水田転換畑でも栽培可能です。また、通気性の高い土壌ほど根張りがよくなるため、有機質を十分に施すことが秀品を多く収穫するポイントです。

元肥については、「モロッコ」などのつるあり種は、栽培初期の肥料過多による「つるぼけ」を防止するため、10㎡当たりチッソ120g、リン酸200g、カリ120gとし、不足は10㎡当たりチッソ40g、カリ40gを、開花・着莢時期から2週間に1回程度の追肥で補うようにしてください。一方、「さつきみどり2号」や「さやっこ」などのつるなし種は、10㎡当たりチッソ150g、リン酸200g、カリ200gとし、すべて元肥でまかさないです。

夏の暑さや冬の寒さを避けて栽培する

インゲンは1年間に3度収穫できることから「サンドマメ」と別名がつけられているほど栽培可能な気温に幅があり、その範囲は10～30℃もあります。しかし、25℃以上で花粉の稔性が悪くなって着莢率が低下するため、収穫が暑い時期にかからないようにします。中間・暖地での露地栽培の場合は4月下旬～5月中旬に播種し、7月中旬までの収穫を目指しましょう。一方、抑制栽培は7月上旬～8月上旬に播種し、夜温が10℃を下回る10月下旬までに収穫できるようにしましょう。

光量不足を防ぐ

過度な密植は、光量不足による落花や莢色の悪化の原因となります。つるあり種は畝幅約2m、株間約50cmで2条まきとし、つるなし種は畝幅約1.5m、

株間約30cmで2条まきとしましょう。つるあり種は葉全体に光が当たるよう、栽培ネットでの誘引が必要です。つるなし種についても、株の倒伏による莢の腐敗や病虫害を防ぐため、誘引ひもなどで株元を押さえておくといでしょう。



落花や莢色の悪化につなげないためには、光量不足にならない管理が必要。

栽培ステージに応じた水肥料管理をする

つるあり種は「つるぼけ」防止のため、栽培初期の水分過多を避けましょう。開花・着莢時期は水分が不足すると莢の曲がりや短莢の原因となるため、多めの灌水で適湿を保ちます。

収穫期を逃さない

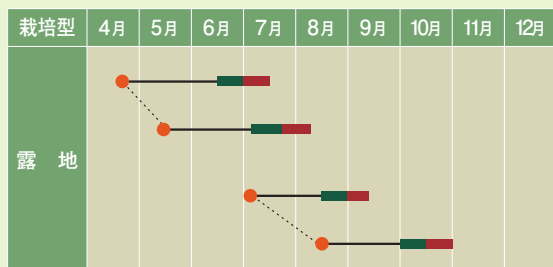
収穫は開花後2週間ごろが目安です。つるあり種では、収穫が遅れると草勢が衰えてその後の収量減につながるため、毎日の収穫が望ましく、収穫時にくず莢なども一緒に取り除きます。つるなし種は、2～3日に1回程度の収穫としましょう。



つるあり種では収穫を毎日行い、草勢を維持したい。

■直売所出荷向け インゲン標準栽培 適期表

(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



● 播種 — 生育期 ■ つるなし収穫期 ■ つるあり収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

インゲン

お皿に美味しいグリーンを！

料理あざやか
モロッコ

タキイのタキイ



地域の好みをつかんで注目度アップ！

インゲン



インゲン担当
河西 孝昭
かわにし たかあき



さつきみどり2号：つるなし種。莢は色が特に濃緑で、肉厚でやわらかい。



さやっこ：つるなし種。莢色は濃緑で、子実の目立ちと曲がりが少ない。



モロッコ：つるあり種。直売所出荷で最もおすすめ！ 莢色は鮮緑色で、料理をすると一層鮮やかなグリーンになる。

直売所出荷向きの品種選定

インゲンは、ビタミンB群・ビタミンCや、カロテン、カリウム、カルシウムなど多くの栄養素が含まれる緑黄色野菜です。また、100g当たりの熱量が約25kcalと、ヘルシーな野菜として再び注目されています。

インゲンは莢の形状によって多くのタイプに分類されており、一般に市場に出回っているタイプから一部地域でのみ栽培されている珍しいタイプのものまで、さまざまな品種があります。よって、栽培する品種を工夫することで容易に消費者の目を引き付けられ、その点も魅力のひとつといえるでしょう。ここでは代表的な3タイプのインゲンについて、直売所にぴったりの品種をタイプごとに紹介します。

どじょうタイプでは…（関東地方中心の地域向き）

どじょうタイプは長さ15～18cmぐらいの長莢で、やや子実の凹凸が目立つ莢です。関東地方を中心とした地域で好んで消費されています。

このタイプでおすすめしたいのが、つるなし種の「さつきみどり2号」です。どじょうタイプの中でも特に食味がよく、莢がやわらかくて甘みがあるため、直売所出荷におすすめです。また、つるなし種のため誘引作業が不要、短期間にすべて収穫できるなど、作業面での省力化のメリットもあります。長期間収穫するのであれば、播種日をずらした段まきをするとういでしょう。

関西タイプでは…（主に関西地方向き）

関西タイプは長さ11～13cmぐらいの小～中莢で、子実の目立ちが少ないスムーズな形状が特徴です。主に関西地方で好んで栽培され、おひたしなどの和食のほか、洋食の付け合わせにも利用されます。

このタイプではつるなし種の「さやっこ」がおすすめで、小莢ながら真っすぐで美しい秀品が多く収穫できます。また、集中着果型で一斉収穫できるため、株ごと収穫して店頭並べ、新鮮さをアピールするのもよいでしょう。

モロッコ(大平莢)タイプでは…（直売用に私のイチオシ）

モロッコタイプは長さ20～23cmぐらいの大莢で、幅が1～2cmほどの扁平な形をしており、莢に大きな子実の凹凸が現れます。莢は多肉質で厚みがあり、粘りのある食感が特徴です。

このタイプの品種の中でも特に甘みがあっておいしいのが、つるあり種の「モロッコ」です。栽培は容易で収量も多くとれます。珍しいタイプなので、直売用として最もおすすめしたい品種です。



「モロッコ」とトマトを使った中華風サラダ。鮮やかなグリーンが食欲をそそる。

ミニポップの
使用例、募集！

当コーナーに掲載されているミニポップ（2008年冬春号以降）を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください（直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様）に「タキトくん」ストラップを差し上げます（2009年4月末日締切。当該発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。）
■宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗（株）広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

安定栽培につなげる畑づくり

マメ科作物の根は、空気中のチッソを固定する働きを持つ、良質なバクテリアの一種である根粒菌と共生関係にあるので、10㎡当たりチッソ成分量は少なめの50gを基準とし、リン酸やカリは100~150gとします。また、苦土が不足すると着莢率が落ちるので、苦土入りの石灰で土壤酸度をpH6.0~6.5になるように調整します。

根の張り方は浅く、狭い範囲で広がるので、生育促進や倒伏防止のためにも良質の有機質を投入し、保水性のよい土壌づくりを心掛けます。

連続出荷に向けた取り組み

露地栽培の場合、播種は遅霜の心配がなくなる5月上旬からが適期になります。発芽の地温は15℃以上を必要とし、早生品種は株間20cm、中生・晩生品種は30cmで、1穴に3粒ずつまき、本葉が展開したところに1本立ちにします。マメ科の中ではエダマメは発芽までの日数が長く、粘土質で土が固まりやすい場合、覆土に砂質などの軽い土を使うと、発芽揃いがよくなります。

このような取り組みで、熟期が異なる品種を同時にまくことや、熟期が同じ品種の間隔をあけてまくことで、7~11月までの5カ月間、連続的に出荷することが可能となります。

収穫判断と出荷のポイント

収穫時期は莢の大部分が肥大し、上部に未熟莢が少しだけ残ったころです。普通豆では莢色が褪せてくるとやや遅れ気味といえます。茶豆や黒豆は、へその付近が赤紫色に薄く着色してきたら収穫のサインになります。

出荷形態には、もぎ莢・枝つき包装・結束出荷とありますが、直売所では、量販店の一般的な売られ方であるもぎ莢出荷ではなく、枝つき包装や結束出荷でアピールしましょう。結束出荷の場合は上部の葉を2~3葉残し、未熟莢は取り除き、莢向きを揃え、8~10本を一束とします。作業時間はやや多く要しますが、少量の根をつけると品質の低下も少なくなり、鮮度維持をアピールできます。

エダマメ豆知識

「丹波黒大粒大豆」の栽培方法

播種時~開花初めのころは高温期にあたるため、定期的に水を与え初期生育を安定させます。さらに、開花期から登熟期は水分要求が特に高く、着莢数や登熟に影響が出るので、畑に一定の湿り気があるようにします。

生育が進むと、カメムシ・ヨトウガ・アブラムシなどの害虫が増えるため、定期的に適用農薬などで防除し、被害莢を最小限に抑えてください。

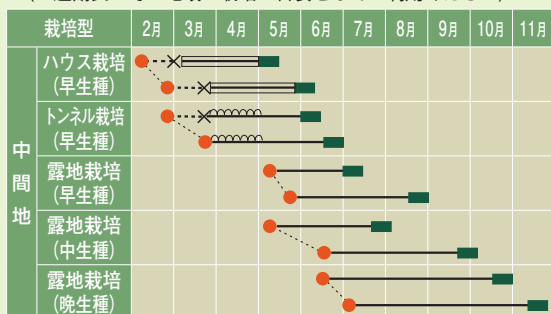
草丈が高く、台風などで倒伏する危険性を防ぐ目的で、中耕、培土だけでなく、支柱などでしっかりと誘引する方がよいでしょう。

エダマメの開花・結実特性と播種の組み立て方

早生~中早生品種は長日条件で開花・結実します。中生の播種期にまくと、株がコンパクトになり、収量が上がりません。また、晩生品種は短日で開花・結実するので、早生や中生品種の播種期でまくと花は一向に咲かず、莖葉だけが茂ります。中生品種はこの中間の特性です。

以上のことから、露地栽培では5月上旬ごろから早生品種の播種が始まり、5月上旬~6月中旬ごろが中生品種の播種期となり、それに続く6月中旬~7月上旬までが晩生種の播種期になります。晩生種は、初霜までで収穫できるように播種します。東北や冷涼地では6月中旬から下旬までに、関東以西の中間地・暖地では7月上旬までに播種します。

■直売所出荷向け エダマメ標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)



● 播種 ○ 育苗期 × 定植 ≡ ハウス ≡≡ トンネル
— 生育期 ■ 収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

コクがあって風味も豊か!



わ せ
「早生黒頭巾」
かひ どり
「快豆黒頭巾」

タキイ



早生・中生・晩生、品種を選んで連続出荷！

エダマメ



エダマメ担当
横川 武弘



濃姫：中早生種、着莢率や3粒莢の割合が高い。黒豆で風味と甘みが強く優れた食味。



ピアフレンド：早生種、低温着莢性に優れる。ふっくらとした大莢で見栄えがよく、市場性が高い。



福成：中早生種、草丈は低めだが分枝数は多い。茶豆特有の香ばしい風味がある。

直売所出荷向きの品種選定

エダマメは収穫後に鮮度の低下が早く、とれたての食味と鮮度のよさをアピールできる直売所出荷にふさわしい野菜です。黒豆や茶豆のエダマメは特に風味がよく、今年私を作るなら、黒・茶エダマメで熟期の異なる「快豆黒頭巾」から「福成」「丹波黒大粒大豆」で連続収穫をねらいます。

黒エダマメ

最近では量販店でも品揃えが豊富になった黒豆のエダマメですが、それでもまだ普通のエダマメより出荷量は少なく、差別化が図れます。

早生種は株がコンパクトなのが特長で、もぎ莢出荷から結束出荷まで各種形態での出荷が可能です。特に「快豆黒頭巾」は、黒豆品種の中でも品質に優れ、枝下から上まできれいに着莢するのが特長です。さらに早出しが利く「早生黒頭巾」は、白毛莢で枝上部の着莢がよいのが特長です。

中早生種には「濃姫」があります。株張りがよく、分枝数も多いので1株当たりの収量が多くなります。

晩生種には、極大莢である「丹波黒大粒大豆」があります。本来、正月用の黒豆の用途として使われていますが、食味が優れていることからエダマメとしての利用が広がってきています。

茶エダマメ

だだちゃ豆に代表される在来品種は、ほとんどが晩生種ですが、「福成」は中早生種で普通エダマメ

の早生種と同様の栽培方法が可能です。茶豆特有の香ばしさと独特の風味が特長です。莢はやや小ぶりですが、3粒莢の割合が高く、結束出荷にも向く品種です。

普通エダマメ（従来タイプ）

早生から晩生種まで幅広く品種選定ができます。早生種では、熟期が約76日で一番早く、濃緑の大莢で3粒莢率の高い「ピアフレンド」があります。80日タイプではトンネル早出し栽培など、低温時期での着莢性に優れて食味のよい「涼翠」や、草勢が強めで3粒莢率が高い「富貴」があります。中生種は安定して収量が多く作りやすい「福獅子」、そして晩生種には、茶毛で大莢の「獅子王」があります。

今年の目玉はこの品種！

ダイズ「丹波黒大粒大豆」



晩秋に収穫できるエダマメは流通量が少なく、さらに「丹波黒豆」の品質は全国ブランドとして定着しているため、購買意欲がそえられるのではないのでしょうか。草丈が高く、莢も大きいので、もぎ莢で出荷するのがよいでしょう。さらに、おいしいゆで方のレシピを添えると販売促進につながると思います。

丹波黒大粒大豆：写真のような状態になれば煮豆用黒豆として。未成熟な緑色で収穫するエダマメは直売所で人気商品に。

ミニポップの
使用例、募集！

宛先：〒6008086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

品種特性を生かし、質のよい果実を長期間安定して収穫するための栽培ポイントについて解説します。

温度を十分に確保

ニガウリやトウガンは高温性の作物です。低温には弱いので、極端な早まきは禁物です。播種期は、畑に定植する際の最低気温を15℃以上確保できる時期から逆算して決定します。発芽に必要な地温は25～30℃です。特に「姫とうがん」は温度に加えて、発芽までに7日前後の日数を必要とするので、床土が乾燥しないように注意します。

圃場は排水のよい場所を選びます。特に雨の度に水がたまるようでは根が傷み、生育不良を起こすので注意が必要です。土壤水分を安定させ、地温を確保するためにも黒マルチを張っておきましょう。

栽培期間が長いので、元肥は肥効が緩やかな緩効性肥料を主体とします。目安として、10㎡当たり成分でチッソ150g、リン酸200g、カリ150gぐらいを基準に施します。

つるの仕立て方

ニガウリ 果実が地面に接すると傷むので、「キュウリネット」などを利用した立体栽培が適しています。親づるを本葉10枚ぐらいで摘芯し、子づるを5～8本伸ばして誘引します。その後出てくる枝は原則として放任とし、込みあう部分のみ整枝や摘葉を行います。株間は広めに、1mほどが適当でしょう。

トウガン 放任栽培も可能ですが、果実の熟期を揃え、管理をやすくするためにも、地這い栽培の子

づる4本仕立てをおすすめします。株間は1m前後、畝幅は3～4mぐらいを確保します。

交配・着果

ニガウリ、トウガンともに受粉しないと着果しないので、自然のミツバチ訪花または手交配が必要です。手交配なら朝の早いうちに柱頭にたっぷりと花粉をつけ、着果させます。

適期収穫に努める

ニガウリの収穫適期は、「鳥さんご」で果実の大きさが20～25cm、「白れいし」は15cm程度になったころです。適期を過ぎると果実が黄色く変色し、商品価値が低下するので注意が必要です。



収穫適期を過ぎ、黄色くなったニガウリ。

「姫とうがん」の熟期判定は果実肥大が止まったころ、開花後25～30日ぐらいです。果実表面にトウガン特有のトゲがあるので、扱いは注意が必要です。出荷前に布でトゲを拭き取れば安全です。



開花後25～30日ぐらいで収穫できる「姫とうがん」。葉実表面のトゲに注意して収穫する。

ニガウリ、トウガン

■直売所出荷向け ニガウリ、トウガン標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培型	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
ニガウリ	冷涼地											
	中間地											
	暖地											
トウガン	2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月											
	ハウス											
	トンネル 早熟											
	露地											
ハウス 抑制												

--- 育苗期 — 生育期 ■ 収穫期

※ニガウリ、トウガンともに播種期の決定は、圃場に定植する際の最低気温が15℃以上確保できる時期から逆算します。

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)

大きく短く「鳥さんご」ニガウリ

苦みのミネラルがたっぷり!!

タキイのタキイ

消費者志向にマッチした健康野菜でアピール！

ニガウリ、トウガン



ニガウリ、トウガン担当
木村 哲



島さんご：濃緑の果皮。果長20～25cmほどの短太ニガウリで、果揃いがよい。



白れいし：ニガウリの苦味が苦手な人におすすめ。白皮で見た目の差別化もしやすい。



姫とうがん：果重1.5kgほどのミニサイズのトウガン。ブルームがほとんど出ない、濃緑の果皮色が特長。

直売所出荷向きの品種選定

近年の健康志向から、野菜の機能性成分が注目を浴びています。ニガウリに含まれる独特の苦味成分（モルデシン）は食欲を増進させるほか、肝機能を高め、血糖降下をもたらす効果があり、作付けが急速に伸びています。また、トウガンはビタミンCを含むほかはほとんどが水分で（96%）、カロリーが低く、ダイエット食品として見直されています。健

康増進に役立つニガウリとトウガンを、直売所のラインアップに新たに加えてみてはいかがでしょうか。

ニガウリのおすすめ2品種

「島さんご」の果実は長さが20～25cmで、胴張りがよく整い、秀品率の高いことが特長です。果皮色は濃緑で商品性が高く、果肉はかためで菌ごたえのある食感が味わえます。

「白れいし」はニガウリの中でも珍しい白皮で、外観が美しい品種です。果実の長さは、15cm程度の短形によく揃います。また、ニガウリ特有の苦味が少ないので、苦味が苦手な方でも安心して利用することができます。

これら2品種はともに晩生種なので、収穫始めは遅いですが、茎葉が茂ってくれば安定して雌花が着生し、着果もしやすくなります。生育は旺盛でつるもちも良好なので、長期間にわたり安定して収量が上がります。



今年の目玉はこの品種！

“俵形のミニサイズ”という「姫とうがん」の果形を、そのまま料理に生かしてもおもしろいのでは？

トウガン「姫とうがん」

トウガンの果実サイズは品種にもよりますが、総じて大きく、一度の調理で使い切れないのではないのでしょうか。紹介する「姫とうがん」は扱いやすい1.5～2kg程度に納まるミニサイズで、核家族で使い切るのがぴったりの品種です。肉質はやわらかめで、煮物にした時に味が染み込みやすく、トロリとした食感が楽しめます。また、貯蔵性を十分に持ちあわせているので、夏に収穫しても通気性のよい冷暗所なら冬まで貯蔵することが可能です。

果形は俵形でブルーム（粉ふき）の発生がほとんどなく、鮮やかな緑色の果皮色が特長です。雌花の着生はやや遅めですが、着果は安定し、強勢でつるもちも良好なので、長期栽培が可能です。気軽にチャレンジできる「姫とうがん」を、直売所での差別化商品としてお役立てください。



ニガウリを使った調理例（カレーマリネ）。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路 タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。
当コーナーに掲載されているミニポップ（2008年冬春号以降）を、あなたの店舗で使用されている写真とコメントをつけてお送りください。（直売所経営または出荷の方が対象です。お送りいただいた方の中から抽選で30名様に「タキイつくし」ストラップを差し上げます（2009年4月末日締切。当該発表は商品の発送をもって。また、写真などはご返却いたしません。ご了承ください。）

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

肥培管理のポイント

施肥量の基準は、水田後作の場合10㎡当たりのチッソ成分で200～250gが目安になりますが、前作の残留肥料や土壌の肥沃度により調整します。

上昇気温下での栽培となる春まき栽培では、結球期にチッソ肥料が遅効きした場合、収穫時の裂球や球腐敗などの原因となります。また、一般的に収穫間際のチッソ肥料の過剰吸収は、葉物野菜に関しては食味・甘さの低下を引き起こすことが知られています。そのため必要以上の追肥は極力控えるようにします。施肥量の2/3を元肥、残りを追肥として中耕作業を兼ねて早めに施し、収穫間際には肥効が落ち着くようにします。

新鮮球の収穫で食味をアップ！

上昇気温下での収穫となる春まき栽培は、生育スピードが早く、収穫適期の幅が狭くなります。過熟球での収穫は裂球などの品質低下とともに、食味の低下も引き起こします。特に今回紹介した良質種の「YR春空」「北ひかり」は早熟性があり、やわらかく品質重視の品種ですから、8～9分結球で収穫し、新鮮さ・食味にこだわってください。また、収穫労力に合わせた計画的な播種、定植を行うことも重要です。

病虫害防除は減農薬を

生食が中心になる良質種では、農薬の使用を少な

くしていくことが消費者の“安心・安全”を満足させることにつながります。農薬をできるだけ使わない工夫としては、ハウス育苗の場合、害虫の侵入を遮断する目的で、ハウス入り口や換気部に防虫ネットなどを設置します。アブラムシ・スリップスなど小型の虫では0.6mm、鱗翅目害虫では1.0mmぐらいの目合いが防除に適します。定植後はアブラムシ、ナモグリバエなどの寄生源となる圃場周辺の雑草除去をしたり、鱗翅目害虫に対するフェロモントラップなどを使用します。

この時期に問題となる菌核病ですが、夏場1カ月程度の湛水で病原菌が死滅するといわれています。水田の後作に栽培するのも本病害を回避する有効な手段です。

株間が広いほど通気性がよくなり薬液がかかりやすく、病虫害の軽減および薬剤散布回数の減少にも効果的です。また玉肥大を促進させる効果があり、揃い性・在圃性も向上します。したがって、株間はやや広めに35～40cm程度での植え付けをおすすめします。

小面積であればマルチ栽培をおすすめします。効果としては次の点が期待できます。

- ①雨による土の跳ね返りが少なくなるため、病気の発生が抑えられる。
- ②栽培期間を短縮できるため、薬散の回数を減らすことができる。
- ③シルバーマルチの利用により、春先に問題となるアブラムシの飛来を防ぐことができる。

■直売所出荷向け キャベツ標準栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

栽培地	栽培型	1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月						
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
冷涼地	北ひかり		●	○	×	—	■	
	YR青空		●	○	×	—	■	
	ネオルビー			●	○	×	—	■
中間地	北ひかり	●	○	×	—	■		
	YR青空		●	○	×	—	■	
	ネオルビー		●	○	×	—	■	
暖地	北ひかり	●	○	×	—	■		
	YR青空		●	○	×	—	■	
	ネオルビー		●	○	×	—	■	

●播種 ○温床育苗 ---通常育苗 ×定植 —生育期 ■収穫期

切り取って売り場の陳列棚用ミニポップとしてご利用ください。
ミニポップはタキイのホームページからもダウンロードできます！
<http://www.takii.co.jp/> (タキイシードネット→野菜前線→直売所支援コーナー)



新鮮と安全にこだわるおいしいキャベツを出荷！

キャベツ (春)



キャベツ担当
城田 良裕
しろうた よしひろ



YR春空：晩抽性と早熟性に優れ、外葉はコンパクトで草勢が強く、栽培しやすい良質種。



北ひかり：生食向きのやわらかでみずみずしい優れた食味が特長の良質極早生種。



キャベツはサラダ以外に熱を加えて調理すると甘みが増す。レシピの提案は売り場で販売促進に。

直売所出荷向きの品種選定

現在、市場流通されている品種の大部分は輸送性・店もち性を意識するあまり、かたい肉質・低水分なものが多く、“おいしさ”という面で満足できるものは少ないと考えます。

今回、直売所出荷向きに“おいしさ(=サクサクした食感・甘みのある食味)”をアピールできる品種を紹介します。新鮮さや安心・安全をアピールできる栽培で“おいしいキャベツ”を出荷し、スーパーなどの量販店やほかの直売所との差別化を図ってみたいとはいかががでしょうか？

タキイおすすめ！おいしいキャベツ

ワイアールはるそら
「**YR春空**」は良質種のやわらかさと普通種の味のよさを兼ね備えた中早生種です。食感のみずみずしくサクサクしており、食味に関しても、多くの生産者から“甘い”“おいしい”と評価をいただいています。味のよさを生かして生食はもちろん、大きめの短冊切りを浅漬けにして食べていただくのもおすすめです。外観は光沢のある緑色、球内色は黄色みが強く、カット販売でも有利な品種といえます。また晩抽性、玉揃いなど栽培しやすい特性も兼ね備えています。

「**北ひかり**」はいわゆる“春キャベツ”タイプの極早生良質種です。特にやわらかくてみずみずしく、食味も優れます。生食以外にさっと火を通しておいしく、量を食べることができます。外観は鮮緑色で、新鮮さをアピールする上でも有利な品種です。

キャベツと魚介のポトフ

■材料(4人分)：キャベツ1/2個(800g)、ニンジン1/2個(90g)、カリフラワー1/2個(220g)、かれい4切れ(1尾180g)、はまぐり8個、チキンコンソメ2個、水6カップ、塩・黒コショウ少々、パセリ(みじん切り)適量

■作り方：①キャベツは芯をつけたまま8等分にし、ニンジンは縦半分に切り、長さ半分に切ります。カリフラワーは小房に分けます。②かれいは4切れにし、はまぐりは貝同士をこすり合わせてよく洗います。③鍋に水とチキンコンソメを入れ、沸騰してきたらニンジン、キャベツ、カリフラワー、かれい、はまぐりの順番で加え、煮ていきます。④すべてに火が通ったら、塩・黒コショウで味をととのえます。⑤器に盛り、パセリのみじん切りをかけます。

今年の目玉はこの品種！

レッドキャベツ「ネオルビー」



ネオルビー：玉肥大がよく、早生で大玉になり、裂球が遅い栽培容易な赤キャベツ。

サラダの彩りに赤キャベツを提案してみたいとはいかががでしょうか？売り場のアクセントとして一役買ってくれるでしょう。とはいうものの、これまでの赤キャベツは“水に弱く栽培しにくい”イメージがありました。今回紹介する「**ネオルビー**」は、赤キャベツとしては根張りがよく、栽培しやすい品種です。

その他の特長としては、①玉肥大がよく、定植後約70日で収穫できる早生種、②球内部までよく着色する、③結球のしまりがよい割に裂球が遅い、などが挙げられます。

栽培の要点は、①定植後の活着をよくするため、ポット・セル育苗による若苗定植を行うこと、②施肥は元肥主体、極端な過湿・乾燥を防ぐためマルチ栽培が望ましい、などが挙げられます。

ミニポップの
使用例、募集！
宛先：〒600-8086 京都市下京区梅小路、タキイ種苗(株) 広報出版部 09番POP係 ※お送りいただく際は、「氏名」「直売所の名称・住所」を明記ください。

直売所出荷で差別化を図る栽培ポイント

播種

200穴トレイを用いて「タキイたねまき培土」のような清潔な用土を使用します。覆土は種子が隠れる程度とし、厚くなりすぎないようにします。発芽適温は20～25℃で、それ以下では発芽が揃いにくくなるので低温期での播種では十分な加温が必要です。適温条件下では、播種後1週間程度で発芽しますが、それまでは乾燥に注意しましょう。

フラメンコ系の「パープル」と「ホワイト」は「フラメンコ」系の他の花色に比べて若干開花が遅いため、ミックス出荷を計画する際には他の色よりも1週間程度早く播種し、開花期を合わせます。

移植からの栽培管理

播種から約25日、本葉4枚程度を目安に移植を行います。9cmもしくは10.5cmのポットを使用し、用土は「タキイ育苗培土」のような清潔なものを用います。

栽培温度は最低15℃を維持します。低温条件下では生育が遅れるだけでなく新葉の展開に障害が出ることもあり、商品価値が低下する場合があります。

葉が込みあってくると徒長しやすいので、必要に応じて株間を広げます。多肥を好み、肥料が切れやすいため、固形肥料や液肥で追肥を行います。「ホワイト」や「トーチライト」などの白色系品種は、

強い日照下では花焼けを生じることがあるので、時期によっては遮光を行います。

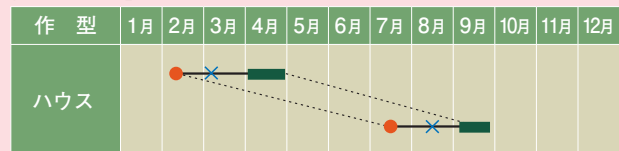
病害虫ではナメクジ、アブラムシ、ヨトウムシ、オンシツコナジラミ、ハダニなどが発生することがあるので、早めに防除します。低温期での栽培では、施設を閉めきり過湿になりやすいため、灰かび病や根腐病に注意します。

花色をアピールして出荷！

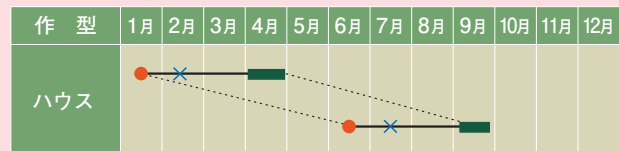
2～3輪開花を目安に出荷します。「フラメンコ」系は株型の揃いのよさを生かして、ミックス出荷することができます。「トーチライト」だけをケースに詰めて、白と赤のコントラストをアピールするのもよいでしょう。

■直売所出荷向け サルビアの切り花栽培 適期表
(※適期表はその地域の栽培の目安としてご利用ください)

「フラメンコ」系の適作型



「トーチライト」の適作型



●播種 ×ポット定植 — 生育期 ■出荷



「フラメンコ」系は株型の揃いがよいため、5品種揃えてミックス出荷が可能。



播種後約75日で開花する中早生～中生タイプの「トーチライト」。

鮮やかな色とボリューム感で注目を集める！

サルビア



サルビア担当
馬庭 弘和
まにわ ひろかず



「フラメンコ」系：横張り型で草丈が伸びず、株のまとまりがよい。また、花壇などで後半まで草姿が乱れにくい。



「トーチライト」：赤と白のコントラストが目を引く品種。開花盛期には草丈約40cmになる。

直売所出荷向きの品種選定

春～秋花壇の素材としてよく使われる品目の一つがサルビア スプレデンス種で、鮮やかな赤色でよく知られています。量販店では店内の一角が赤一色になるという場面をよく目にしますが、赤色だけではなくその他の色を加えることで売り場はもっと華やかになることでしょう。

今回は、レッドを含む全5色のシリーズ「フラメンコ」系と、独特な花色が美しい「トーチライト」をご紹介します。

「フラメンコ」系

「レッド」「サーモン」「ローズ」「パープル」「ホワイト」の全5色があります。これまでも赤色以外の品種はありましたが、花色によって草姿が異なるため、色を組み合わせるの出荷が容易ではありませんでした。その点、「フラメンコ」系は株型の揃い性に優れているので違和感なくミックス出荷ができます。

「フラメンコ」系の特性

- 播種後約65日で開花する早生品種。
- 節間が伸びにくいので、ポット栽培で株がよくまとまり、店もち性にも優れている。
- 従来の品種に比べて基部分枝性に優れており、節間も伸びにくいので、花壇などで後半まで草姿が乱れにくい。
- 全品種が濃緑色なスペード型の葉をしている。

「トーチライト」

「トーチライト」は、白色のがくと鮮やかな赤色の花とのコントラストが美しく、人目を引く花色が特長です。また、葉色が濃く花色をより一層際立たせます。

「フラメンコ」系に比べると大株に仕上がるタイプで（出荷時約15cm、開花盛期約40cm）、播種後約75日で開花します。